

地域情報

(一社) 熊本県野菜振興協会鹿本支部

退緑黄化病等の対策推進

県内のウリ類産地では、コナジラミが媒介する退緑黄化病等のウイルス病が長年の課題となっています。そこで、鹿本地域でも微小害虫を「入れない」「増やさない」「出さない」の基本対策の徹底を推進しているところです。しかし、対策実施に対する「生産者間の意識差」が見受けられることから、鹿本地域ウリ類退緑黄化病防除対策会議会員傘下の生産者へアンケート調査を実施しました。

その結果、対策を実施していると回答した生産者でも実際にはその内容が不十分であるなど、対策の実施状況には個人間差があることが明らかとなりました。一方で、地域全体で取り組む必要があるとの認識も多くの生産者が持っていることが改めてわかりました。

このため、令和4年度は、追加コストのかからない栽培終了後の「閉め込み」を栽培者のマナーとして徹底していくことを重点取組事項に掲げ、アンケート結果をもとに作成した啓発資料を活用しながら対策徹底を推進しています。

4 令和4年度の重点取組事項

栽培終了後の「閉め込み」は、栽培者のマナーとして徹底する！！

☆「閉め込み」はコストをかけず、誰もが取り組める対策です。

☆実施しないと保毒虫が野外に飛び出し、周囲に迷惑をかけることになります。

☆「閉め込み」の際は、次の4つの基本事項を全て行わないと効果が激減します。

【閉め込み時の徹底事項】

- ①隙間がないように密閉する
- ②ハウス内の作物は引き抜くか、地際で切って枯らす
- ③ハウス内外は除草する
- ④ハウス内の植物が枯死してから1週間以上閉め込む

<啓発資料一部抜粋>